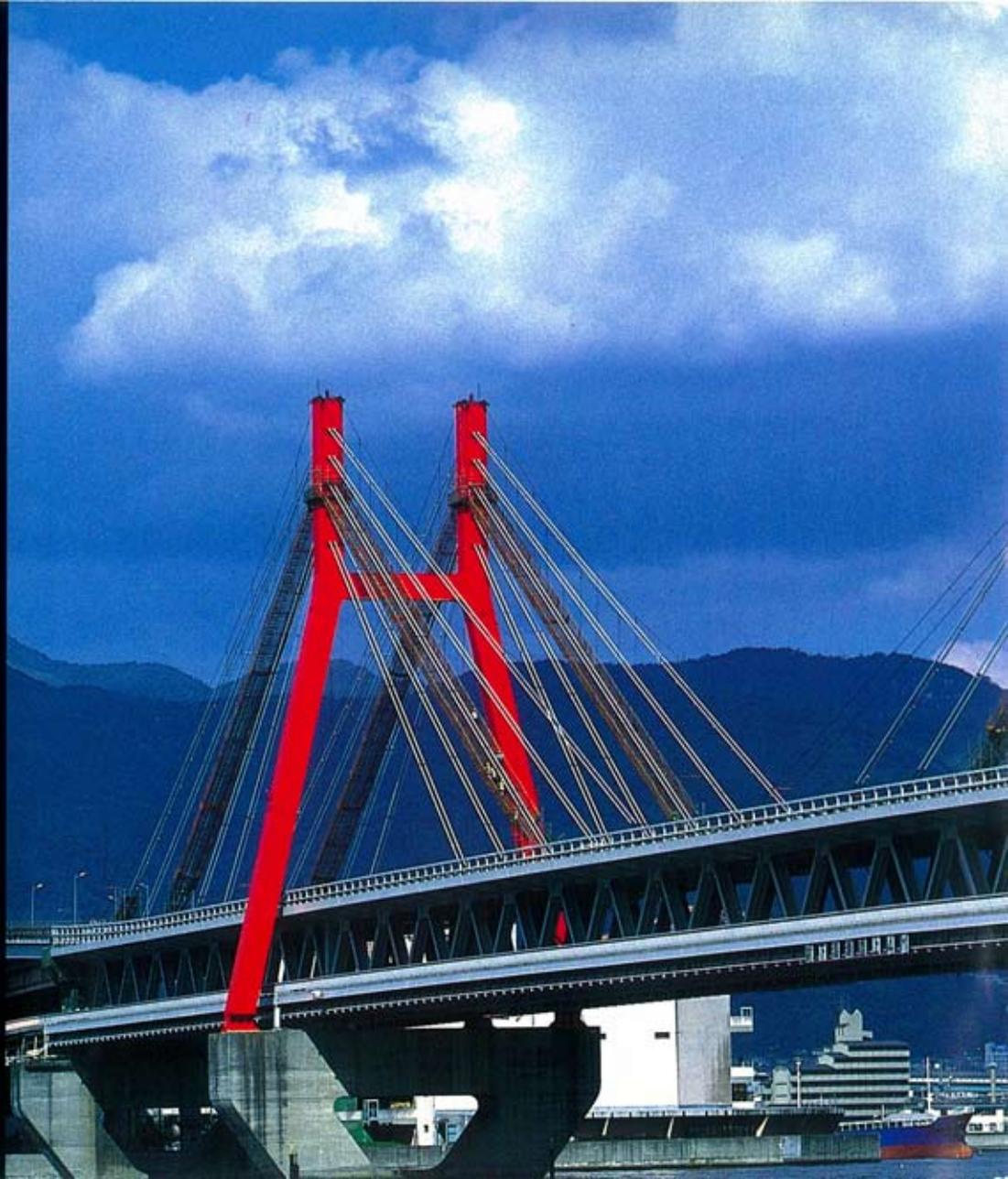


# 神戸新景

No.  
13

P  
小山  
保



●にしむら珈琲文庫 ④●

毎日いつも変わりなく“美しく”

ゲスト・杉村 春子

〈女優・文学座〉

インタビューア・川瀬 喜代子

〈にしむら珈琲オーナー〉

大阪梅田の毎日ホールで、文楽座の『近松女敵討』に出演中の杉村春子さんの楽屋を訪ねての珈琲タイム。白地に萩の花が優しく描かれた着物に、薄紅色の帯をキリッと締めた姿は一服の絵のような美しさ。開幕前に川瀬喜代子オーナーと久々の旧交を暖める会話が続いた。

杉村 川瀬さんようこそ！

川瀬 本年もどうぞよろしくお願いいいたします。この度上演の近松女敵討が昨年の文化庁芸術祭賞を取られましたおめでとう存じます。杉村 有難うございます。本当に嬉しい事です。スタッフ全員のお力ですのよ。

川瀬 昨年は、幸田文さんの名作『流れる』を、四月名古屋公演を皮切りに、東京での三ヶ月間のロングランを終られ、どんなにお疲れかと思っていたら、お手紙を頂いて、今、中国へ旅行中、帰ったら十月公演のお稽古に入ります。それで驚いていたら、十一月初め、先生独特の明るい歯切れのいい口調のお電話で、「今、近松女敵討のお芝居で北海道の富良野なの。外は雪が降っているのよ。」と事もなげにおっしゃるのを聞いて、本当に先生のタフな行動に唖然と致しました。

杉村 毎日毎日好きなお芝居をやっているからよ。私の方はい

つも川瀬さんをみると、経営者なんかなれっこないから、どうして沢山のお店をやって行かれて、何時もイキイキしていられるんだらうと、わからない気持。同じ事です。

川瀬 こうして新年号を先生に飾って頂いて、毎日毎日の舞台を新しい気持でお迎えてしよう先生に改めて新年の決意は、なんて聞くの野暮な事ですが……

杉村 アラ、お正月が来るなんて、思ってもいませんよ。十二月次が一月と思つてやっているんですよ。あなただって新しい年を迎えるなんて厭でしょう。(笑)

川瀬 おっしゃる通りです。私も虚子の句の『去年今年貴く棒の如きもの』こんな気持であります。

杉村 今年は又『女の一生』を持って全国を回ります。十八才になるんですよ。

川瀬 そうして舞台で変身なさるから、お若いんですね。

話は変わりますが、この間山田五十鈴さんが、杉村さんのあの色気はどうして出せるんでしょう。

舞台姿はもちろん、お芝居を終って化粧を落とし、浴衣姿でお風呂へ走ってゆかれる姿にも、すれ違つた若い男優さんが、ゾクツとする色気を感じると云つていらつしやるの。とおっしゃっていましたよ。本当になんとも云えぬ品のいいお色気なんです。



杉村 アラ！ホント？ 嬉しい事云って下さるわ。自分では全然わからないワ。

川瀬 それに最近テレビで先生の  
お若い時の映画をよく見ますが、  
お若い時よりも益々最近の方がお

美しいんです。男女とも年を重ねる毎に美しくなってるゆえに、本当に素晴らしい事ですね。益々お美しく、いい舞台をみせて下さいませ。

私も「にしむら珈琲店」が年を

経る毎に重みがつき、ますます美味しいコーヒーが出せる様、勉強していきたいと思えます。

今日は御化粧から着付迄、じっくり傍でみせて頂き、初春から素晴らしい日でした。有難う存じます。



左から  
ジャケットのすそに、ほら、シャープな表情が。  
初春の席には、上品な調いを漂わせるこんな  
スーツがふさわしい。  
●ビルプラス/スーツ(毛100%) 120,000円  
■3階プレタホルテサロン  
若々しい、大きなVライン。スカーフやコサージュで、そこに華やかなイメージをプラスして。  
●アルファキュービック グイードバスカーリ/ワンピース(毛100%) ……65,000円  
■2階サム・ム・プレ

新しい年への夢を語り、春のよろこびをわかちあう。  
初春のステージでは、  
改まった気持ちを装いにもあらわしたいものです。  
いつもよりやさしく、晴れやかに――  
母と娘のお正月。

おだやかに、春の色。

年内は休まず、全館7時まで営業(31日<sup>土</sup>は6時まで)  
新春は1月3日<sup>日</sup>11時から営業



DAIMARU KOBE

電話(078)331 8121



高野多美 (TAMI TAKANO)

大丸神戸店ファッションコーディネーター

きのうとおなじ日の光りなのに、

きのうとおなじ街並みなのに、

きのうとはすっかり違う新しい気持ち。

新年って不思議ですね。世の中はなにも変わらないのに、人間が作った智恵なのか、気持ちの上で燦としたり、今年こそは、などと思ってみたりいたします。

子供の頃、新年を迎えると、枕もとに新しい肌着から新しいお洋服が揃えてあって、それを着ると気持ちが、新しい年になっていました。

さて、新春のファッションはウォーム感のある素材に明るい春の色をとり入れて、あざやかに始めませんか。

カラーは甘さを押えたベールトーン。ブルーグレー、クールピンク、クールオレンジ、生成など、おとなの女性に似合う色が流行です。デザインは、流行のトレンドをほどよくとり入れたエレガントなディテールがこれらのオケージョンにふさわしいでしょう。ボディにやさしくフィットした細く長いシルエット。ジャケットは短い丈、スカートやドレスはプリーツやフレアーをとり入れた長めの丈、スイング感覚がやさしい女らしさをそえてくれるでしょう。



ひと、光る神戸です。



使ってみたい、  
こんどの98。

もっと速く、もっと便利に。  
お客さまの声に高性能でお応えします。

登場

NEC パーソナルコンピュータ  
PC-9800シリーズ

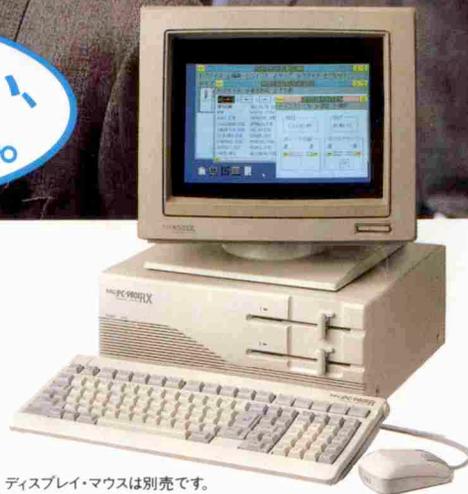
# PC-9801 RX2 / RX4

RX2:1Mバイトタイプ5インチFDD2台内蔵

RX4:1Mバイトタイプ5インチFDD2台、20Mバイトタイプ3.5インチ固定ディスク1台内蔵

本体標準価格 398,000円

本体標準価格 566,000円



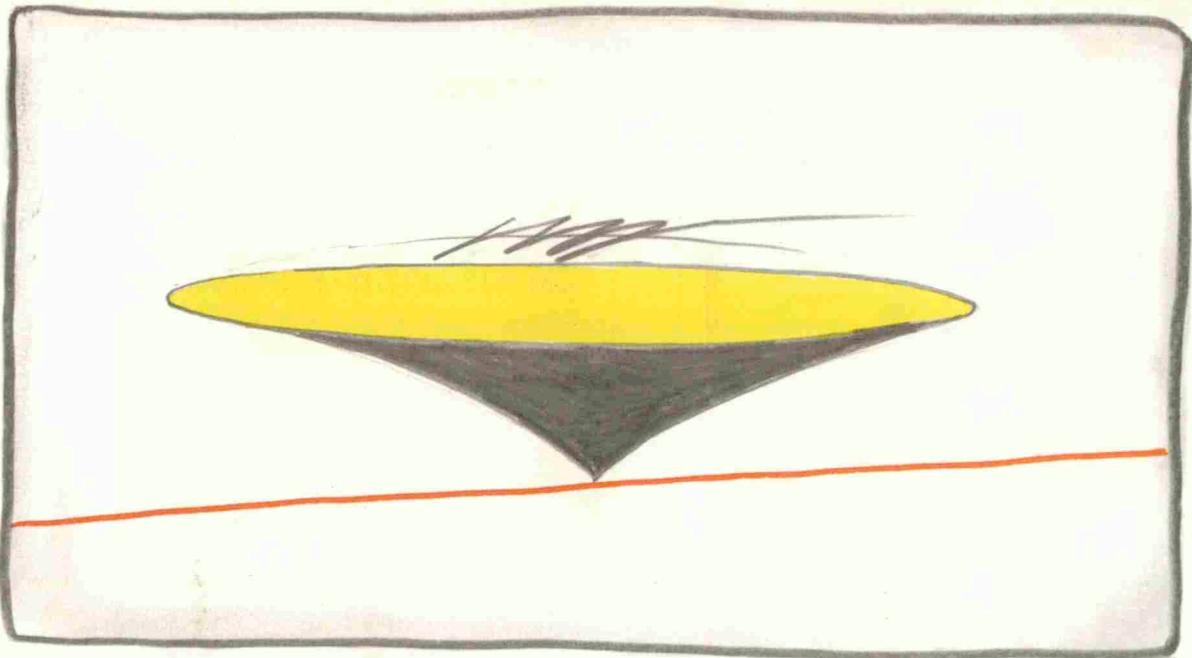
ディスプレイ・マウスは別売です。

98は、日本の「働く私」が進化させている。LT・LV21・LS2/5・UV11・CV21・VM11・RX2/4・RA2/5

日本電気株式会社 神戸支社 〒650 神戸市中央区東町126(神戸シルクセンタービル) ☎(078)332-3311

つながるぞ ひろがるぞ  
NECのパソコン





Keiji Uematsu

これは神戸を愛する人々の雑誌です  
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
 神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
 これは神戸っ子の心の手帖です

1月号目次 ● 1989・No.333

表紙／小磯良平

セカンドカバー／西村功

9 神戸っ子 田中吉田 愛・松田茂樹

15 12 11 神戸市民同友会・神戸室内合奏団

16 美の小箱／杉浦美佐緒・文・乾 由明

18 神戸新景／カメラ・小山保

20 私の意見／石野信一神戸商工会議所会頭

29 第13回神戸文学賞受賞発表

32 追悼 小磯良平画伯逝く

35 ホエム・ド・コウベ／季村敏夫

36 随想二題／稲垣美穂子・高橋裕嗣

38 新春対談Ⅰ 田辺聖子との新井 満

46 経済ボケットジャーナル

52 エッセイ／田中千佳 カット／西村功

54 トランペット片手にブラジル一人歩き へ16／右近雅夫

56 神戸音楽夜話／ギターと私 平吉 毅洲

58 新春特別インタビュー／21世紀・神戸のランドデザイン／宮崎辰雄神戸市長

72 フアッションインタビュー／大内順子と松谷富士夫

76 フアッションスポット

86 神戸のお嬢さん／川飛満里子・勝山江美子

88 ネオ・モーターメルヘンPARTⅡ／篠原順子（絵と文）

106 ふたたびプロフェサーの研究室／岡田 淳

108 猫じゃらし／佐藤晴美

117 タカラヅカ対談／阿古健・剣幸・大浦みずき

122 動物園飼育日記 (27)

128 神戸の集いから

132 KFSニュース

134 話題のひろば Ⅰ兵庫県文化協会創立20周年

136 神戸を福祉の街に／橋本 明

144 出会いの旅／大西節子

148 有馬歳時記

153 モダンカルチャー

154 シネマ試写室／淀川長治

155 ぴつといん

158 地域文化論／水谷頌介

163 神戸文学賞選考座談会／杜山 悠・武田芳一・鄭承博

168 連載小説／お夏 門田 露 カット・大重徹

178 幸運の星占い／長田亜弓

182 神戸っ子倶楽部会員情報

ボエム&コラージュ／金月焰子

海船港／新年に翔ぶ

ジェットフライ・かどもとみのる

カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也

# TANGO'89

哀愁と情熱の〈タンゴの真髄〉をあなたに……



ACTUACION ESPECIAL

セステート・タンゴ [演奏]  
SEXTETO TANGO

オスバルド・ルジエロ [バンドネオン]

OSVALDO RUGGIERO

アレハンドロ・サラテ [バンドネオン]

ALEJANDRO ZARATE

オスカル・エレーロ [バイオリン]

OSCAR HERRERO

エミリオ・バルカルセ [バイオリン]

EMILIO BALSARCE

フリアン・プラザ [ピアノ]

JULIAN PLAZA

アルシデス・ロッシ [ベース]

ALCIDES ROSSI

演出・演出 ©ネルソン アヒラ  
日暮 仁

1989年1 / 27(金) 6:30

神戸文化ホール〈大ホール〉

S席 5,000円 A席 4,000円

B席 3,000円 あじさいシート売り切れ

◆お問い合わせ/神戸文化ホール事業部

☎351-3535

## 特別展

### 神戸ゆかりの巨匠たち展

小磯良平、東山魁夷、村上華岳など  
芸術家12人の名作・約200点が一堂に!



「夕明り」東山魁夷 昭和47年

2月10日(金) — 3月26日(日)

● 休館日 月曜日・3月22日(木)

● 開館時間 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

● 入館料

	一般	大学生	高校生	小中生
当日料金	800円	700円	550円	300円
前売料金	700円	600円	500円	250円
団体料金	600円	500円	300円	150円

\*団体は30名以上

テレホンサービス  
TEL (078) 332-7810



# 神戸市立博物館

〒650 神戸市中央区京町24番地 TEL. (078) 391-0035

迎春



 WHOLESALE & EXPORTER of Natural Pearls  
**KINOSHITA  
PEARL  
CO.,LTD.**

*Order Salon*

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078) 221-3170

10:00AM~6:00PM 12/28~1/3は休ませていただきます。

東京 / 赤坂・銀座・青山 大阪 / 心斎橋

本年もよろしくお願ひ申し上げます。 1989年元旦

# F · R · E · S · H

## さんプラザ店

自然の素材を吟味、ヨーロッパ  
伝統の製法を生かしたカスケード  
のパン、手づくりのおいしさをじ  
っくりと味わって下さい。



## ベーカリーキッチン

できたてのパンを中心としたセ  
ットがおすすめ。お飲物からお食  
事までヴァリエーション豊かなメ  
ニューが楽しめます。



さんプラザ店 神戸市中央区三宮町1丁目8番  
TEL. 078-331-9738

☆私の意見

# 神戸の新しい 都市文化の 振興・創造を

石野 信一

〈神戸商工会議所会頭〉



年頭にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。  
我が国経済は、昨年一年間極めて順調に拡大し、産業界も久しぶりの好況に潤った年であったと存じます。

地元神戸経済においても、鉄鋼、造船等の重厚大型産業がその中心をなしていることもあり、長らく不況に苦しんで参りましたが、日本経済全体の拡大傾向の中で、次第に明るさが広がりつつあります。

今年は、現在の景気拡大を出来るだけ長く持続することが大きな政策課題であり、また、産業界においては、この好景気が続くうちに、構造転換を一段と進め、将来に備えることが大切であると存じております。

さて、今日、地域経済や都市の活性化が重要な課題となっております。都市の活性化には、人、物、情報を如何に集めるかが必須の条件となります。神戸では従来より官民が協力して、フアッション・コンベンション・スポーツ・観光都市づくりを進め、成果をあげてきましたが、今後更に神戸が発展をするためには、他の都市では真似のできないような大規模な集客施設が必要だと考えます。

その意味で、東京デイズニールランドに匹敵する「レジーナワールド」計画を本所としても積極的に推進して参りたいと存じてます。また、今年、神戸沖空港、関西国際空港へのアクセスの実現にとっても重要な年となると思われまます。更に、最近リニアモーターカー新幹線構想が注目されておりますが、神戸としても、重大な関心をもって取り組んでいかなければなりません。

神戸は、都市づくりにおいては、いろいろな点で全国の先鞭をつけてきましたが、文化の面では必ずしも、十分ではなかったと考えます。そこで本所としても、今後神戸の新しい都市文化の振興・創造に力を注いでいきたいと存じます。またその一環でもあります。秋に開催するワールドフアッションフェアは、ぜひ成功させたいと願っております。

念願の新商工会議所会館が昨年末に完成致しました。新年からはこの新会館を拠点として活発な事業を実施して参りたいと存じますので、関係各位の一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

月刊神戸っ子主催〈第13回〉

# 神戸文学賞発表

昭和五十一年、小誌は創刊15周年記念事業として、作家を志す有為の新人に新しく道を開くために「神戸文学賞」および「神戸女流文学賞」を創設し、昨年第12回目より、さらなる質の向上を図るため、両賞を「神戸文学賞」に一本化し、作品募集地域を西日本より全国にさせていただきました。第13回作品募集は、昨年9月末に締切り、全国各地から多数の応募作が寄せられ、別記の選考委員により最終選考を行い左記の作品が第13回の受賞作・佳作と決定しましたのでここに発表します。

□神戸文学賞受賞 門田 露〈もんでん・つゆ〉

「お夏」



△略歴▽  
一九四一年生れ。短大社会福祉科卒業後、施設の指導員、カウンセラー、藍染古布と刺し子デザイナーを経て九年前文字学を始める。女性読本主宰。  
△受賞の言葉▽  
女ばかりのグループで始めて「生書いていく」といって合って、それでもみんな他愛ない理由で次々辞めていった。結局私一人、意固地なのかもしれないが続ける才能だけはあったのだろうか。

□神戸文学賞佳作 弓 透子〈ゆみ・とうこ〉

「インディアナの長い影」



△略歴▽  
昭和八年大阪市生まれ。大阪大学法学部卒業。みのお文芸およびとほす同人。大阪女性文芸賞第一回佳作入選。同賞第五回受賞。文学界転載一回。  
△受賞の言葉▽  
いつも不思議なのは同人誌の作品に賞応募の資格が殆どないこと。町内の運動会に出たら団体にでてはいけないといわれているような感じです。同人誌に優しい神戸文学賞佳作入選を感謝します。

□最終選考候補作

「鳴き砂の浜」

畑 裕子  
△滋賀県▽

「黒き砂嵐」

湊 合子  
△滋賀県▽

「スイート・メモリーズ」矢部由香里  
△鳥取県▽

「インディアナの長い影」弓 透子  
△大阪府▽

「朝のモナド」  
本吉 洋子  
△神奈川県▽

「たわごと」  
長門 郊美  
△長崎県▽

「お夏」  
門田 露  
△兵庫県▽

□選考委員 杜山 悠

武田 芳一

鄭承博

主催 月刊 神戸っ子

## ●第十三回神戸文学賞受賞

門田 露 もんでん・つゆ

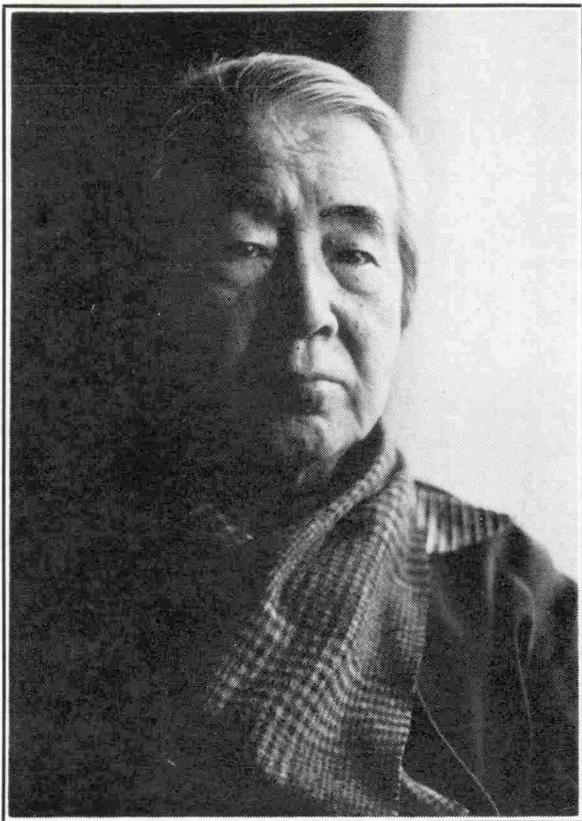
### 視野の広い、女性らしい作品を

本誌が主催して来た二つの文学賞が「神戸文学賞」に一本化されたのが一九八七年。その第三回目の受賞者である。一九四一年、四国伊予の石鎚山麓、平家落人伝説の村に生れる。京都の短大で社会福祉を学び、中学校社会科教員の資格を持つ。卒業後、社会福祉施設の指導員を経験し、保育所・カウンセラー活動等に参加。また、京都民芸大学で手織りを学び、藍染古布・刺し子等の工房を開く。小説と出会ったのが九年前、その間に木曾義仲の愛妾「友君」をあつかった『こだわり』他、『細川玉の消息』、『ふるさとの女―大石りく』、そして今回の『お夏』と、四作をものにした。「女だから、やはり男の人に書けないものを…」といずれも「女たち」にスポットをあてた。「広い視野でものを見た。それを文学上でも生かせたら…」と明るく抱負を語ってくれた。

(甲子園、自宅近くにて)



# 神戸モダニズムを創った 小磯良平画伯逝く



ありし日の小磯画伯

月刊神戸っ子の表紙絵を毎月、気品高く清雅に、そして神戸らしいハイカラなモダニズムで描いた、われらが小磯良平画伯が、十二月十六日午後八時十七分、肺炎のため、甲南病院で亡くなられた。八十五才。

偶然にも、編集室に主治医の宮崎先生の父君が、小磯編集長の友人として勤めている関係で、十六日の朝、小磯先生が危険な病状と知らされてはいいた。

が、知らせを深夜に聞いて、とにもかくにも御影のご自宅へ編集長と共に伺った。午前一時頃だったが新聞記者が玄関へ詰めかけて、西村元三郎画伯（新制作）と、

石阪春生画伯と押し問答中であつた。

三カ月間の闘病の最期をみとつた次女の嘉納邦子さんとご主人の洋二さんに案内された。アトリエに安置された小磯先生の静かな穏やかな顔は美しく、プロテスタントの信者であるその遺体には、黒いベツチンの布の胸元に、白い十字架と白い百合が清楚に刺しゅうされていた。

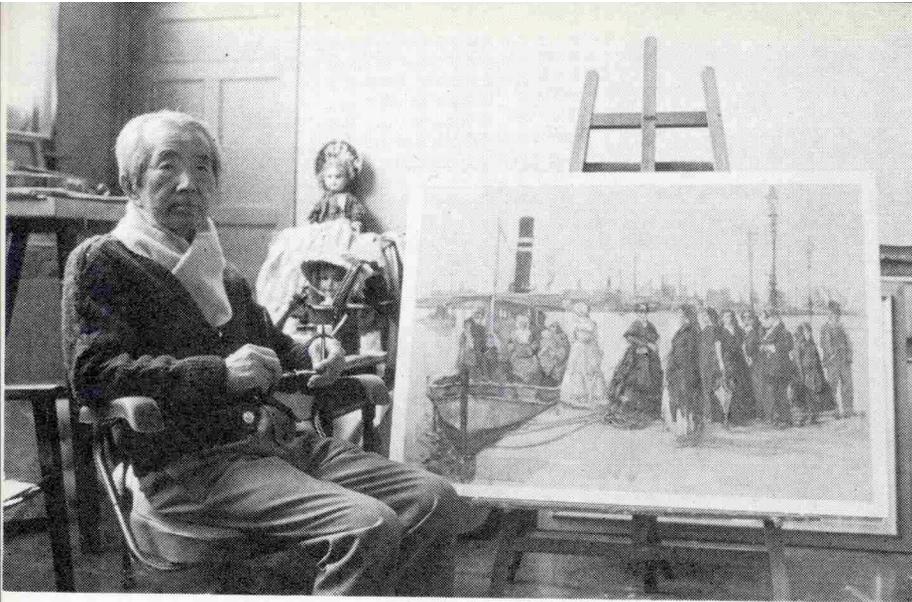
長女の沢村嘉子さんと邦子さんの二人の少女像とバレリーナの図、そして孫の元さんの像や、手づくりの帆船などが飾られて一服の絵のような光景に息を呑んだ。

（小磯先生、長い間、お世話になりました。ほんとにありがとうございました）手を合わせて、先生のお顔をみ

ると、いつもアトリエで静かに淡々と絵を描かれている時と変らないのが不思議で、「絵の虫」だった偉大な画家の、貫き通したモダンイズムと、シャイだったが凛とした姿勢に、深いつしりとした、それでいてさわやかな感銘を受けた。

「百年に一人の天才だったね」

と小松益喜画伯。その夜、画家三人と嘉納夫妻、愛犬クレオとお手伝いのおばさんと、チンザノが好きだった小磯先生の想い出語りの中で飲んだシナモンを気かせたホットウイスキーの味わいは、暖かい画伯のお人柄のように身に沁みだ。



県公館のタピストリーのメリケン波止場の絵が完成したときアトリエで

朝、七時。阪急御影の駅は、六甲降しが冷たく、親友の詩人の竹中郁さんのお葬儀も寒かったことが想い出された。どうやら神戸教会でのお葬儀は、喪主の澤村猷児さんのネパールからの帰りを待つと、十九日になりそうな気配。

この夜の鮮明なシーンは、私にとって一生忘れられない風景になった。

小磯画伯は明治三十六年神戸市平野生れ。平野小学校から旧制神戸二中（現兵庫高校）へ。竹中郁、金井元彦（近代美術館館長）田中忠雄（行動美術）は同級生。東京美術学校（現東京芸大）では、在学中に「T嬢の像」で帝展特選（大正十五年）、帝展無鑑査で画壇のエリートの地位を確得した。昭和三年、竹中郁の誘いに渡欧。フェルメールや、アングルらの古典、新古典の画風、さらにマネやドガらの印象派からも学んだ。昭和十一年の帝展改組に、内田巖、三田廉、猪熊弦一郎、中西利雄らと新制作派協会（現新制作協会）を結成「芸術運動の純粹化」を計り、去年の秋も手持ちのデッサンを出品、中心的存在だった。

昭和十六年、戦時中に描かれた代表作「斉唱」は、松蔭の女学生達のコーラス風景で、この制服も小磯画伯のデザインだ。十七年には「娘子関を征く」で第一回芸術院賞を受賞されている。

新聞挿絵では、昭和七年に朝日新聞に連載小説を初担当。戦後、昭和三十年代に、船橋聖一「白い魔魚」石川達三「人間の壁」川端康成「古都」などは、清新な挿絵で凄い人気。他に毎日新聞、井上靖「しろばんば」など印象深い。昭和三十三年に現代日本美術展大衆賞を受賞。

昭和二十五年に母校の講師となり、昭和四十六年の退官まで、小磯教室の自由な空気と、学生闘争の頃、最後迄学生と話し合ったのは隠やかな小磯画伯で、気骨のある姿勢は今も語り草になっている。

昭和三十六年本誌三月号創刊。五月号に、三十年ぶり

に訪れたパリ風景とエッセイ巴里を掲載。抜群の人氣に翌年より、約二十六年間表紙を飾る。昭和九年に先輩誌の神戸ツ子の表紙にも、小磯画伯の絵がある。

昭和四十九年に宮内庁赤坂迎賓館の壁画完成。五十四年文化功労者、五十七年に芸術院会員、五十八年文化勲章を受けた。一昨年一月、県立近代美術館で小磯良平展を開き出席されたのが最後だった。昨年四月「小磯良平記念室」が設けられ、「斉唱」「丁嬢の像」など二十四点を所蔵している。

その品格ある画風と、モダンで写真に徹した清雅な人物像は追隨を許さぬ人氣があり、マイペースな静かな闘志を常に持ち続け、晩年、手が不自由になった時も必ず毎朝、邦子さんと散策するなどの努力と精神力は、作家生活への真摯な姿勢が伺えた。また、病気でここ二年間絵筆を持ってない苦しさは邦子さんがよき理解者で、アトリエに戻った遺体に「絵を描きたい、描きたい、といっていた父にふさわしい場所です」と感慨深げであった。

画家の石阪春生さんは、

「僕にとつて、絵にも、人格的にも、只ひとり尊敬できる人でした。時間が経ったら穴があいたように、だんだんと衝激が大きくなってくるでしょうね。

小磯先生は、僕が絵を描き続けてきた心の支えと、憧れが全て含まれていると思います。そして、自分が生きて行く上にも、絵を描く人間としても、これからも心の中に住み続ける人でしよう。絵描きという人間の中で、一番多くの時間を持って接してきましたが、静かな方だっただけに、じつくりと後で衝激がくるんじゃないかな。

近代芸術の中でも洋画は「個」の芸術です。

先生のような巨人の強烈なエネルギーは、放つておいても強い影響を受けるのです。だから、弟子といえども、巨人のエネルギーを壁にして、自分の「個」を確立しなくてはいけない。それが先生に対する教えにむくいることだと思っていました。

自分の絵に似ているから喜ぶ人ではない。『おれの絵に似たらあかん』という教えを、ぐっと持っていた方で。僕の叔父にあたる詩人の竹中郁と親友でしたが、二人とも、先生は貿易商、竹中は粉屋という商人の家に生れ文化性を持ち続けましたが、二十代でヨーロッパに行き絵も、詩も、それにたべものも、洋服も、フランスで憶え、勉強してきたものを「意地」でやりぬきましたね。

二人とも最後まで椅子の生活でした。畳で寝る姿がなかった。それほど西洋にこだわったということは、日本画への、また、日本の文学へのアンチテーゼであり、洋画や、詩を、日本の文化の中に定着させました。これは、神戸という港町が西洋文明にさらされるという土壌の中で、自分達が体験してきた文化性を、仕事の意識の中で持ち続けたことが、環境とうまく溶けあつて成功したのだと思いますね。

二十代でパリへ留学できるというシチュエーションを親たちが許したのも幸いして、西洋の貴族文化というか中流文化を嫌味のない、こなれた神戸モダニズムを創りあげた。ハイカラな神戸のライフスタイルを、ダンディズムを創ったのではないでしょうか。

ヨーロッパの生活ぶりを真似て、生活ぶりの中で、身体の中から出てくるもの、学問でもない、環境の中からふつふつとしたものが絵の中に出てきている。ほくも、生活ぶりを学ぶことから、身体から、生活態度から出てくるものが、自分の世界を創るのだと教わったと思います。

とにかく勉強家でした。「絵の虫」ですよ。

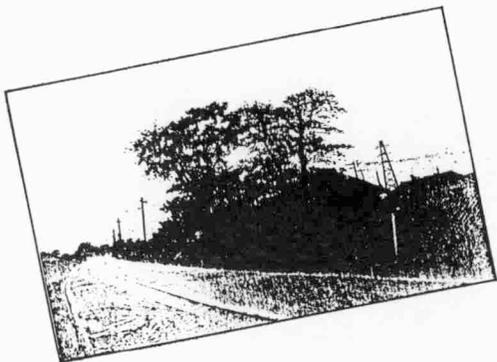
音楽はモーツァルトが大好きで、軽やかだけど荘重な小磯先生の絵と似ていますね。」と語り恩師をしのんだ。  
(昭和六三年十二月十七日記)

小泉美喜子

カメラ/米田定蔵

# さながら果樹園が光るように揺れ

私の歩む散歩道の、前方か後方、或いはななめ上か、さながら果樹園が光るように揺れ、網膜にのこったその残像が、ほんの一瞬うずいて、消えていった。その後しばらく立ちどまっていたが、またゆっくり動きはじめた朝の影法師のなか、かいなは胸おさえ首ふり、首はふられつづけ、もはやもう、名のるあてなど、名のることなどないのであろう。



詩／季村 敏夫  
絵／田中 一好

随想 二題

生まれてしまった  
人の責任

稲垣美穂子

△演劇集団目覚時計代表▽



それは明大前の稽古場開きの日でした。

三年前のことです。やっと借り受けたこの稽古場でどんな作品を創っていいとかと夢を語り合ううちに、胎児のミュージカルはどうかという話になりました。

この十年間のミュージカル運動のなかで私達は、舞台から見た子供たちやそのママやパパの反応から「荒涼とした現代」を感じていました。そして何とかして「夢」と「現実」とが一体となった素敵なドラマは出来ないものかと思いつづけていたのです。

胎児は子宮の中の十月十日の間に人類の進化の歴史、三十億年と同じ経過を辿るのだそうです。何と胎内の一日が人類進化の一千万年に当たるのだとか――。

四十五億年前に誕生した地球。やがて、その地球上にひとつの生命体が生まれ、原始生命体から魚類へ、魚類から両生類へ、両生類からハ虫類へ、ハ虫類から哺乳類へ、そして人間にという三十億年の進化を、胎児は子宮の中でこと

もなく経過しているのです。

また精子と卵子とが結合して五週間もすると心臓の薄い膜が作られるのだそうですが、その瞬間から心臓は子宮の中の十月十日はもとより、誕生から、その永い人生にむけて休まない鼓動を始めるわけです。

何という偉大な現実！ 私はこの現実に生命の神秘と尊厳とを覚ええました。

暫くして、井深大氏とお近づき



リハーサル中の稲垣さん

になる機会に恵まれ貴重な資料やアドバイスをいただきました。こうして三年、胎教ミュージカル「胎児に対する親の責任について」は完成したのです。

素晴らしい台本を書いて下さった松木ひろしさん、才気あふれる演出・振付けの浦辺日佐夫さん、晴かい音楽を創って下さった寺島尚彦さん。そしてたくさんのスタッフ、仲間達の力よっての完成です。

♪  
ママお願い イライラしないで  
パパお願い ママと仲良くしてね  
ママの心の波風

僕らは揺られて大きく育つ  
パパとママが幸せならば  
僕らは良い子に育つよ。

ミュージカルの中で唄われる、胎児たちからママへのメッセージもう、生まれてしまった人間たち、大人たちは胎児から送られるこのメッセージにどんな答えをしてくれるのでしょうか。

★「胎児に対する親の責任について」  
2月11日(土)14時と18時  
新神戸オリエンタル劇場

随想 二題

写真展「旧居留地と  
その周辺を訪ねて」

高橋 裕嗣  
△写真家△



それは感動から始まった。

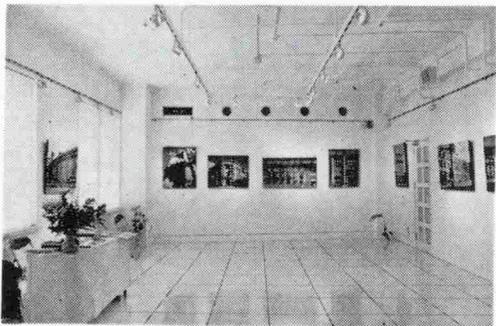
夕日に照らされた神港ビルの塔屋おもわずシャッターを切ったのが最初だった。海岸通りに残る近代建築は海に向かって玄關がある。

それは港が栄えた印でもあり、港そのものであったのだろう。昨年取り壊された旧神戸商工会議所ビルは、造船・海運・商社など目ざましく発展した当時の神戸のシンボルであり西洋建築のデザインの中にも柱頭に獅子頭やシャチののせたり、花頭窓や臺股等、日本の伝統的要素が数多く盛り込まれており国際都市神戸ならではの建造物であった。取り壊されていく商議ビルを見るのはつらく、カメラを向けることさえできずただただ祈ることしか出来なかった。消え去った建物は、私の心に大きな空白を作り、撮影を一時中断させてしまった。

ビルの影がまだ長く黒々と地を染めている冬の朝じつと太陽がビルにあたり始めるのをまつこと数時間、あと少しもう少し……。ビルが少しづつ語り始める。こんな想

いを伝えたい、都会に風景があることを、感動することを……。

町を切り撮っていくと新しい町が見えてくる。こんな場所が、こんな建物が、毎日なげなく見ている町も、朝・昼・夕・春・夏・秋・冬とかたちを変えて色をかえて語りかけてくる。それがすぐくオシャレだったり、セクシーだったり。どの都市に行っても同じ建物が多くなり、その都市らしさを失いつつある現在、神戸には、ま



大好評だった写真展（リブ・ラブ・ウェストギャラリー）

だにおいがあり「らしさ」が残っている。「コマージュは夢を売る商売だ」とあるプロデューサーが語った。都会をテーマにしたコマージュが外国で多く撮影されている。日本にはそんな場所がないのだろうか？夢も創れない街からなが発進できるのだろう。建物は、街を作り、環境を作り、人をも創る。建築物が人々にあたえる影響は、多大だどつねづね私は思っている。

街はすてきな大道具、日曜画家やカメラマンが街をスケッチしていく、深みのある街が出来るといいな、そんな街を再発見していただく手助けと、新たな感動を求めて、この作業は今後ともつづけていきたいと思えます。

最後に今回の写真展の実現のためにおしみなく労力と声援を送って下さった熱き心の人達に心よりお礼を申し上げます。